

整形外科新患調査 2012 概要報告

集計データ数および期間

調査期間：2012年（平成24年）6月1日～6月30日の内、任意の連続する7日間（休日も含む）

調査対象：上記調査期間内の全ての整形外科新患者

回答施設数：1,442施設（参加率71.7%）

集計データ数：86,353（収集データ数90,291から途中登録3,983を集計対象外とした）

症例数：84,544例（1診断を1データ（件）として入力したため、院内管理コードで再集計）

年齢・男女別新患件数

全体の件数の49.6%が男性、50.4%が女性（性比98.5%）で、男女の件数に違いは見られなかった（図1）。平均年齢は51.2歳で男性47.1歳、女性55.2歳と女性のほうが8歳以上高かった。同様に、65歳以上の割合（高齢化率）は男女計34.7%、男性27.6%、女性41.7%と女性のほうが高かった（図2、3）。

年齢（5歳階級）の分布は、男性は10～19歳に小さなピークがあり60～64歳で最大のピークになった。女性は60～79歳と幅広い範囲でピークがあった。女性はピークに向かって加齢と共に増加する山型の分布であるのに対して、男性は比較的平坦な分布であった（図4）。

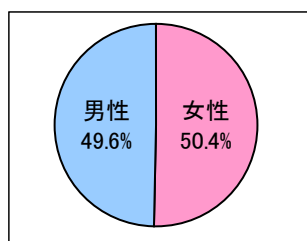


図1. 男女別新患件数

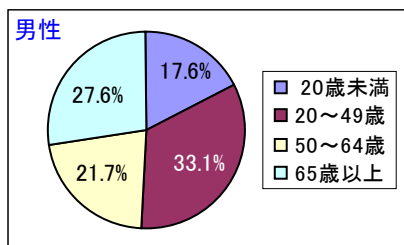


図2. 男性の年齢4階級別新患件数

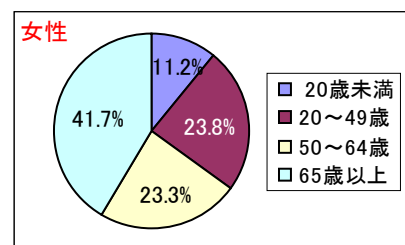


図3. 女性の年齢4階級別新患件数

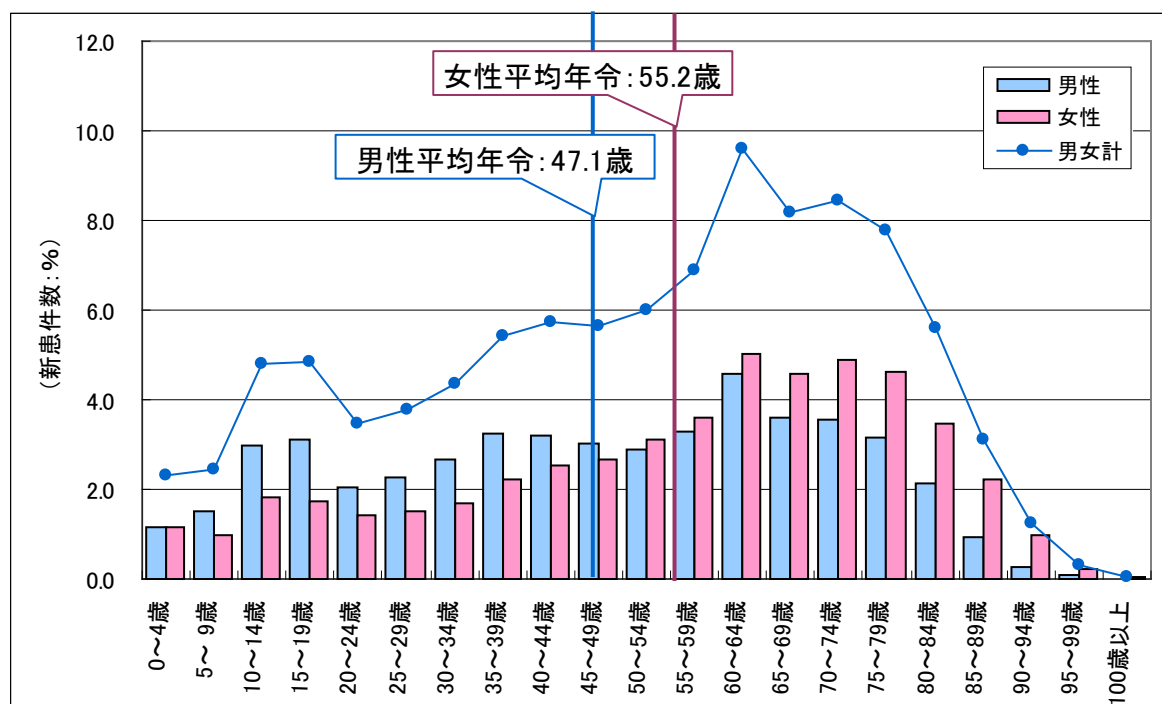


図4. 年齢（5階級）・男女別新患件数

整形外科受療率

年齢による分布を見るために 5 歳年齢階級別に新患件数を人口（総務省統計局による本調査期間に最も近い 2011 年 10 月 1 日の推計人口）で除したものを整形外科受療率として図 5 に示す。

男性では 80～84 歳に最大のピーク、10～19 歳に 2 番目のピークがあった。女性では 10～19 歳に小さなピークが認められ 75～79 歳のピークに向かって加齢とともに増加していった。

男性の 10～19 歳のピークが際立っている。その他の年齢層では性別による大きな分布の違いは見られなかったが、50 歳までは男性、50 歳を過ぎると女性が高かった。

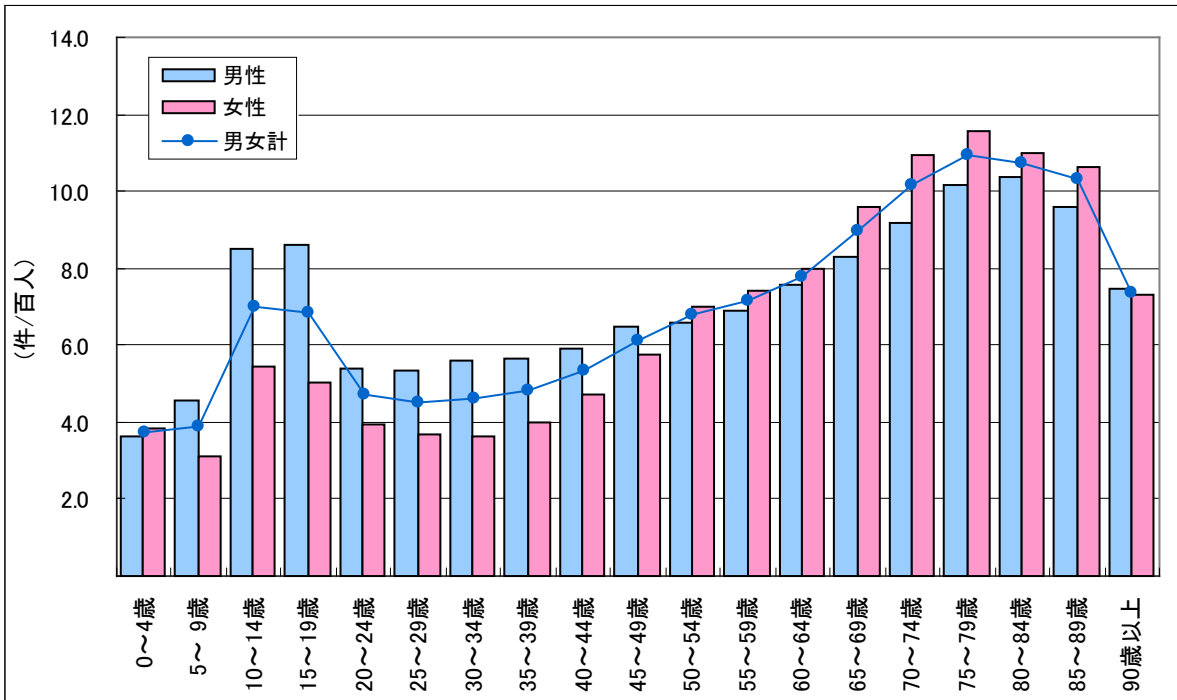


図 5. 整形外科受療率

年齢（5歳階級）別性比

年齢による男女差を比較するために本調査と推計人口の性比（男性÷女性×100）を図 6 に示す。

推計人口による性比は高齢になると小さくなって（女性が多くなって）いることから、本調査では 0～4 歳を除き 50 歳までの男性が多い傾向にあった。

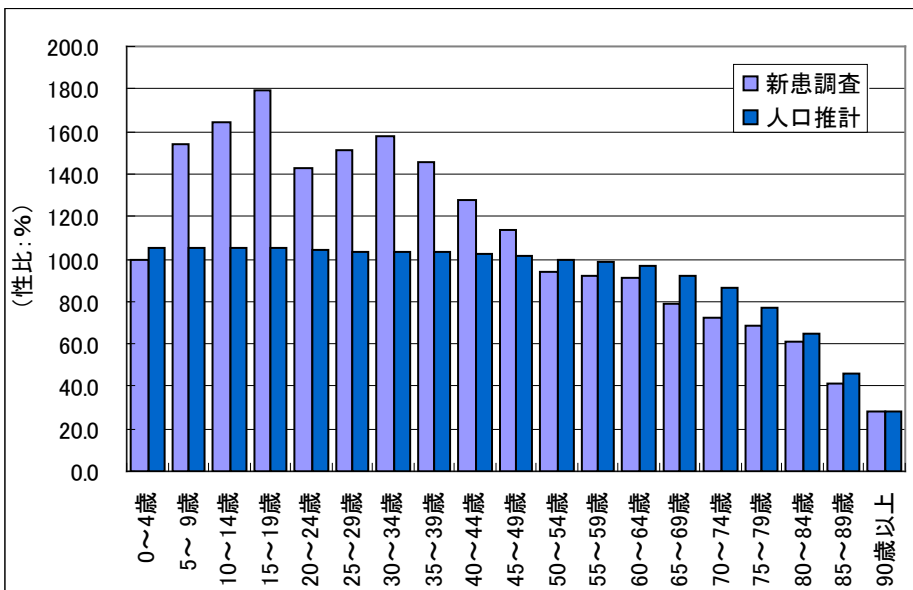


図 6. 年齢（5歳階級）別性比

基本領域

上肢 26.2%、下肢 33.2%、脊椎・脊髄 31.9%とほぼ同じ割合で存在した（図 7）。

（整形外科手術調査 2009 では、上肢 34.3%、下肢 49.9%、脊椎・脊髄 14.3%であった。）

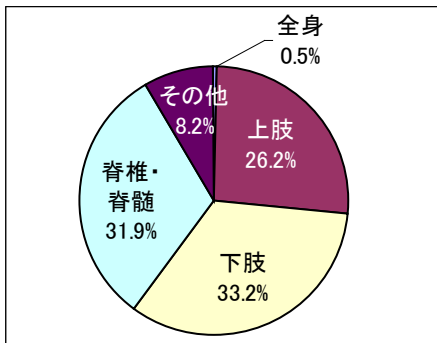


図 7. 基本領域別新患件数

部位小分類

部位小分類では、腰椎が最も多く全体の 18.8%を占めた。続いて、膝関節 14.0%、手関節・手 13.9%、足関節・足 11.2%、頸椎 10.4%であった（10%以上を抜粋）（図 8）。

上肢では、手関節・手 52.7%、肩関節 25.7%、肘関節 15.1%であった（図 9）。

下肢では、膝関節 42.1%、足関節・足 34.2%、股関節 14.6%であった（図 10）。

脊椎・脊髄では、腰椎 59.1%、頸椎 32.9%、胸椎 6.6%であった（図 11）。

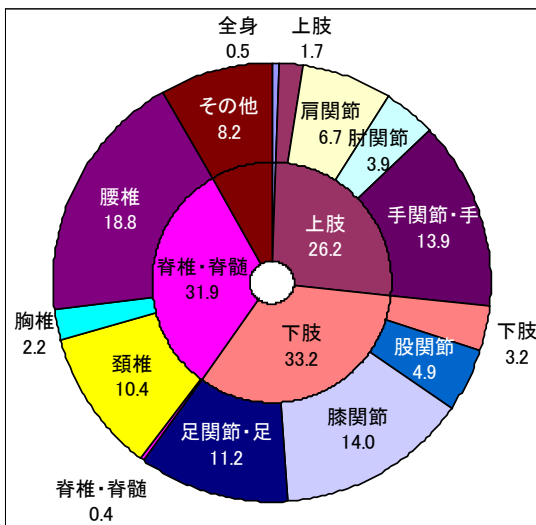


図 8. 部位小分類

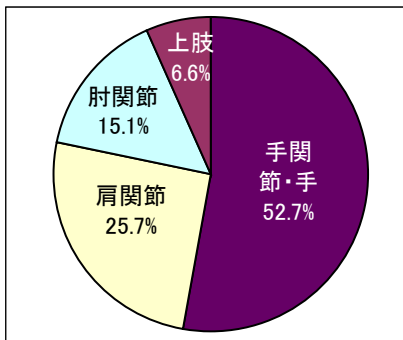


図 9. 上肢

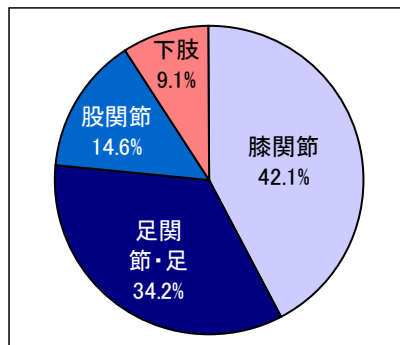


図 10. 下肢

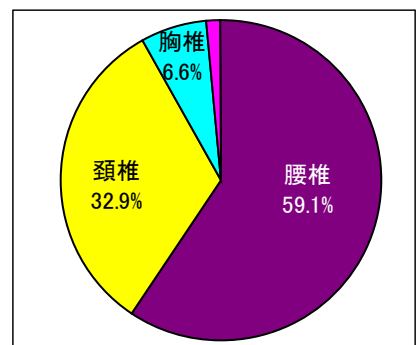


図 11. 脊椎・脊髄

治療方法

全体の約9割（89.4%）が保存療法（保存療法のみ）、約1割（10.6%）が手術施行（保存療法→手術、手術）であった（図12）。男女別の件数はほぼ同じであった（図13）。

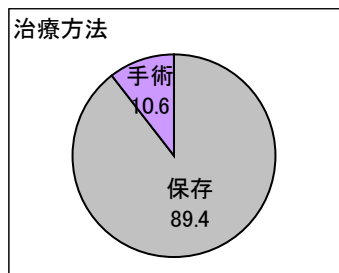


図12. 治療方法別新患件数

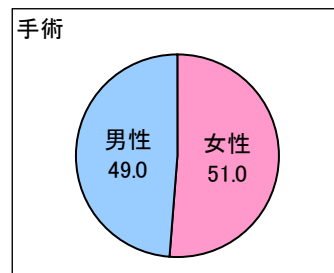
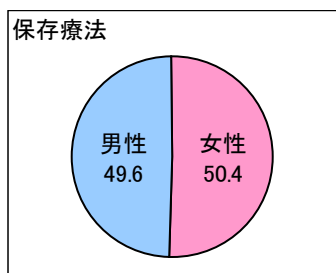


図13. 治療方法・男女別新患件数

外傷／疾患

全体の約4割（40.2%）が外傷、6割（59.8%）が疾患であった（図14）。

男女別に見ると外傷では男性（性比117.8%）が、疾患では女性（性比87.7%）がやや多かった（図15）。

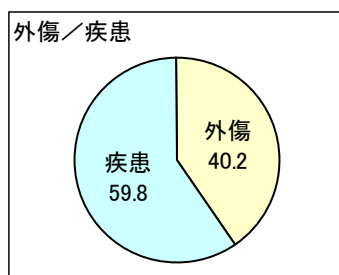


図14. 外傷／疾患別新患件数

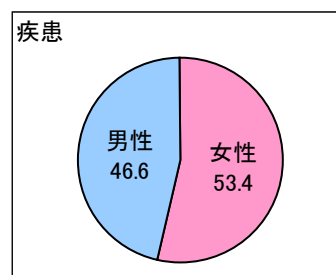
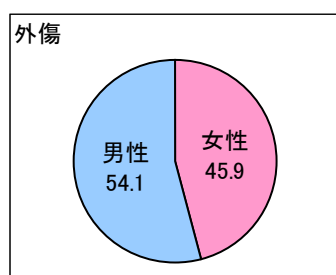


図15. 外傷／疾患・男女別新患件数

診断分類

全体の約4割が外傷であったが、約6割を占める疾患では、変性疾患・拘縮が最も多く63.9%を占めた。続いて、炎症性疾患が21.0%を占めた（図16）。

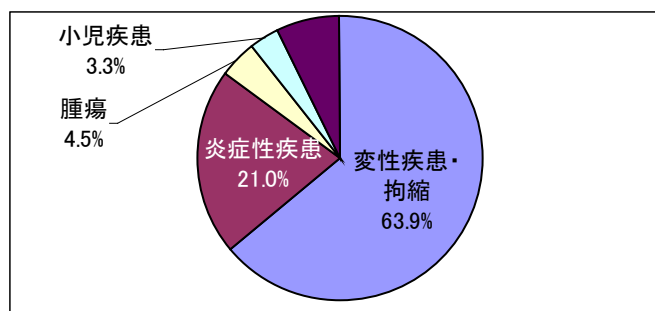


図16. 疾患の診断分類別新患件数

診断小分類・部位別新患件数

診断小分類・部位別新患件数で1%以上のものを表1に示す。これらで本調査の約4割を占めていた。

| No | 外傷 疾患 | 診断小分類 | 部位 | 新患件数 | | 性比 (%) | 保存 (%) | 手術 (%) |
|--------|----------|-----------|--------|--------|-------|-----------|-----------|-----------|
| | | | | (件) | (%) | | | |
| 1 | 疾患 | 変形性脊椎症 | 腰椎 | 9,822 | 11.4 | 98.3 | 94.3 | 5.7 |
| 2 | 疾患 | 変形性関節症 | 膝関節 | 6,000 | 6.9 | 45.7 | 91.0 | 9.0 |
| 3 | 疾患 | 変形性脊椎症 | 頸椎 | 4,068 | 4.7 | 113.7 | 95.5 | 4.5 |
| 4 | 疾患 | 椎間板ヘルニア | 腰椎 | 3,316 | 3.8 | 151.8 | 90.3 | 9.7 |
| 5 | 疾患 | 肩関節周囲炎 | 肩関節 | 2,141 | 2.5 | 95.5 | 99.6 | 0.4 |
| 6 | 外傷 | 靭帯損傷 | 頸椎 | 1,759 | 2.0 | 112.7 | 99.9 | 0.1 |
| 7 | 外傷 | 靭帯損傷 | 足関節 | 1,755 | 2.0 | 109.2 | 98.5 | 1.5 |
| 8 | 疾患 | 変形性関節症 | 股関節 | 1,332 | 1.5 | 28.4 | 74.5 | 25.5 |
| 9 | 外傷 | 靭帯損傷 | 膝関節 | 1,176 | 1.4 | 138.5 | 74.1 | 25.9 |
| 10 | 外傷 | 皮膚・皮下組織損傷 | 手 | 1,013 | 1.2 | 156.5 | 83.9 | 16.1 |
| 11 | 外傷 | 皮膚・皮下組織損傷 | 膝関節 | 992 | 1.1 | 108.4 | 97.2 | 2.8 |
| 12 | 外傷 | 骨折 | 大腿骨－近位 | 950 | 1.1 | 27.3 | 18.5 | 81.5 |
| 13 | 外傷 | 骨折 | 橈骨－遠位 | 937 | 1.1 | 77.1 | 63.3 | 36.7 |
| 14 | 疾患 | 椎間板ヘルニア | 頸椎 | 885 | 1.0 | 149.3 | 95.3 | 4.7 |
| 15 | 外傷 | 骨折 | 腰椎 | 862 | 1.0 | 48.4 | 98.0 | 2.0 |
| ・・・ 省略 | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 86,353 | 100.0 | 98.5 | 89.4 | 10.6 |

表1. 診断小分類・部位別新患件数

医師の評価

図17に最長3ヶ月後の医師の評価を示す。

治癒8.3%、軽快41.1%、不変20.2%、悪化0.2%、中止30.2%であった。

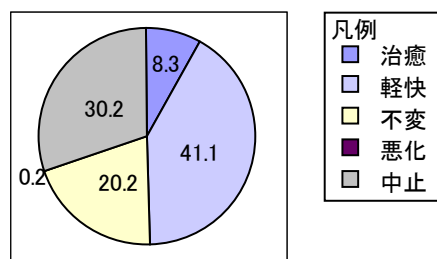


図17. 医師の評価